

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	平成28年度第1回武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会
開 催 日 時	平成28年8月3日(水) 午後6時 ~ 午後8時
開 催 場 所	市役所3階 301会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：委員6名 欠席者：谷津副会長
議 題 等	1 報告 (1) 武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置要綱の一部改正について 2 議題 (1) 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）事業について (2) 平成27年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について (3) その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	1 報告 (1) 特になし。 2 議題 (1) 各事業のKPIのみの判断ではなく、補足情報を記載の上、外部有識者からの意見とする。 (2) 他に意見があれば、8月12日（金）までにメール等で事務局にいただく。 (3) 推進委員会の意見をまとめて、主管課にフィードバックし、国に報告するとともに、市ホームページで公表する。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	1 報告 (1) 武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置要綱の一部改正について (事務局) 武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置要綱の改正点について説明 2 議題 (1) 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）事業について (事務局) 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）各事業について説明 —質疑・意見等— (委 員) 「観光PR映像制作事業」のKPIが、村山温泉「かたくりの湯」の3月の入場者数となっているが、比較対象として前年（平成27年）3月の入場者数は何人か。 (事務局) 16,508人である。 (会 長) 入場者数を年間で見ると前年から増加しているが、3月だけを見ると減少している。3月のみで判断しなければならないのか。 (委 員) 3月のみを前年と比較するのであれば、入場者数が減っているのだから、事業の効果があつたとは言いがたい。 (事務局) 観光PR映像の制作を昨年度1年間かけて行ったため、映像が完成して公開してからの効果を測るということで、3月の入場者数をKPIとして設定している。 (委 員) これから効果が出てくるものである。

	<p>(委員) 「子どもの知力・体力向上プロジェクト」の「部活動支援事業」及び「英語検定事業」について、部活ごとの入部者数増加率の平均及び各級の合格率の平均ということでしょうか。</p> <p>(事務局) 部活動支援事業については、入部者数の前年比率は一中95.3%、二中300%、三中500%、四中50%、五中59%であった。その平均値である。英検は2級から5級まで受検者がおり、全中学校の受検者に対する合格者数の割合である。</p> <p>(委員) 英語検定を実施することで学習意欲の醸成を図るのは良いと思うが、今のまま目標年度を迎えるのには不安がある。</p> <p>(事務局) 合格率に波ができてしまうのは仕方ないが、学校としては高い目標を掲げて、生徒と努力していく方針である。</p> <p>(委員) 各事業について、観光PR映像制作事業以外は事業を継続していく方針のようであるが、国からの交付金がなくなった今年度以降は市役所の財源を充てているということか。</p> <p>(事務局) 基本的には市の単独事業として行っている。継続していきたいと考えてはいるが、市の財政状況は非常に厳しいため、削らざるを得ない事業が出てくるかもしれない。</p> <p>(委員) 新規事業として始め、計画上では5年間実施していく形になっている。国の交付金がなくなったから事業が継続できなくなったというのは残念なので、活動に最低限の予算が必要な事業については、推進交付金などの国の交付金の利用を検討しつつ、継続してほしい。</p> <p>(委員) ウィメンズチャレンジプロジェクトの今年度の予定はいかがか。</p> <p>(委員) 緑が丘ふれあいセンターで継続していく。ハローワークの再就職相談会、起業フェスタ、女性の就業支援講座等で「ウィメンズチャレンジプロジェクト」の冠を付けて実施していく予定である。</p> <p>(委員) 当事業は、平成27年度実施分の結果だけを見て数字上で評価はできるが、1年間で結果を出すことはとても難しく、複数年の計画の上で、継続して実施することで成果が出てくるものは他の事業でも多くある。平成27年度だけ事業を実施して、その後全く実施していないものがあるとしたら、それでよいのか。平成27年度の評価だけすればよいのかという疑問がある。今年度も実施されていることがあつての昨年度の評価であると思う。</p> <p>(事務局) 地方創生先行型の事業については、平成27年度の評価をしていただかなくてはいけないものである。次の議題である総合戦略の平成27年度末の進捗状況管理の方がメインである。</p> <p>(委員) 「観光PR映像制作事業」について、今まではなかったため、動画で見られるのは効果的であると思うが、動画の存在のPR方法が課題である。</p> <p>(委員) 観光PRには有効であるものだと思う。観光納涼花火大会や村山デエダラまつりなど様々なイベントで放映し、市民が接する機会を多くするような工夫をしたらよい。</p>
--	--

	<p>(委員) 動画の貸出しについてもアピールする。</p> <p>(事務局) 情報館「えのき」では絶えず放映している。</p> <p>(委員) 村山デエダラまつりでもメインステージの舞台転換の際や会場のどこかで絶えず放映しておくなどして、やっと市民に存在が認識されると思う。</p> <p>(会長) 予防接種システムについて、ダウンロード数が意外と少ない。子育て情報サイトのアクセス数はとても多いのに、予防接種システムの登録が進まなかったのはなぜか。</p> <p>(事務局) PRはしているが伸び悩んでいる。</p> <p>(委員) 実績値については、市内の新生児数と同数程度だと予想していた。</p> <p>(事務局) 平成27年の出生者数は549人である。市としては新生児以外の2～3歳児をもつ親のダウンロードも見込んでいた。</p> <p>(委員) 予防接種のスケジュールで悩むのは、新生児から3歳児くらいまでである。</p> <p>(委員) 予防接種は新生児のときが最も多く、大きくなるにつれて回数が減っていくので、そこまで需要はないのかもしれない。ダウンロードしたという話を聞くのは、新生児の母親がほとんどである。妥当な結果であったと思う。</p> <p>(委員) 「子どもと外出しやすいまちづくりプロジェクト」の「絵本の読み聞かせ事業」について、実施回数が、40回ということであるが、算出根拠はどうであるか。</p> <p>(事務局) 1日に2回実施しており、月2回の6月から3月までの10か月間で40回である。</p> <p>(委員) それであれば、4月から実施しているので48回ではないか。参加者数について、同じ人が1日2回の両方の会に参加しているケースが多いが、カウント方法はこれよりよいのか。</p> <p>(事務局) 主管課に確認し、訂正があるようならお知らせする。(訂正なし)</p> <p>(委員) 「地域スポーツ活動応援事業」について、事業費の用途は何か。</p> <p>(事務局) 卓球教室の講師謝礼、体育協会への委託料及び卓球台8台の購入費である。</p> <p>(委員) 今後も使用できるものなのでよしとする。</p> <p>(委員) 費用の点からすると、「子どもの知力・体力向上プロジェクト」の特進講座事業は、1回の受講者数が10～12人程度であるが、費用に対してどうであるのか。また、受講者の学力向上は図れたのか。</p> <p>(事務局) 本市の学力の底上げを目標としており、受講者の学習意欲の向上は見られるとの話である。</p> <p>(委員) 受講者以外の学習意欲も上がらないと意味がない。特進講座は年間何回実施したのか。</p> <p>(委員) 昨年度の説明では、通常の授業よりも発展的な学習を行い、試行していた中学校では特進講座によって、進学重点校への進学者が増加したということであった。</p> <p>(事務局) 特進講座の実施回数及び参加人数は、一中23回271</p>
--	---

	<p>人、二中28回296人、三中27回366人、四中34回260人、五中29回319人である。実人数ではない。</p> <p>(委員)今の説明を聞くと、費用が受講者数に対して高いという印象はない。</p> <p>(事務局)各中学校の当初の在籍人数は、一中17人、二中21人、三中30人、四中8人、五中10人である。</p> <p>(委員)この評価及び意見は国への報告であり、市民に公表はされないのか。</p> <p>(事務局)担当課へフィードバックした後、市ホームページで公表する予定である。</p> <p>(委員)同じような疑問が出ると思うので、補足を書いておいてほしい。</p> <p>(委員)「外部有識者からの意見」の欄に延べ人数を書くとうい。</p> <p>(事務局)各事業とも補足できるところは事務局で記載する。</p> <p>(2)平成27年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について</p> <p>(事務局)平成27年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について説明</p> <p>—質疑・意見等—</p> <p>(委員)資料5ページ「3 産業の振興と雇用の促進」の「(仮称)産業振興ビジョンの策定」について、市としてはどんな産業を振興していきたいのか。平成31年度に検討終了とあるが、その年に検討を終えるのが目標ということか。</p> <p>(事務局)工業、商業、農業、観光を含めた産業全般である。また、目標については平成31年度までに検討を終わらせるということである。実際にビジョンを策定するのは32年度以降かもしれない。</p> <p>(委員)「地域ブランド認証事業の実施」について、平成27年度は1品増えているが、申請が1品だったのか、申請は複数あったけれど認証されたのが1品だったのか。</p> <p>(事務局)昨年度はなかったと思うが、過去には申請はあったが不採択というケースもあった。申請があると審査会を開くが、実際には事前に相談を受けており、採択に関するアドバイスをすることもある。</p> <p>(委員)目標値達成への課題のところ「地域ブランド認証の手続や要件等の緩和」とあるので、実際に認証を希望する人は多いのかと思った。</p> <p>(事務局)手続としては、職員も手伝って行うため難しくはない。要件の緩和というのは、独自性がないと地域ブランドとして認証できないが、その部分を緩和するというような議論もあるということである。</p> <p>(委員)資料12ページ「子どもの貧困対応プランの策定」について、平成31年度にプランを策定するということが、それとも既にプランを策定し、動き始めるということか。</p> <p>(事務局)平成31年度までに策定するという目標である。</p> <p>(委員)子どもカフェでは独自に子ども食堂を実施している。</p> <p>(事務局)現在、健康増進計画・食育推進計画の改訂をしており、</p>
--	---

	<p>子どもの貧困について、健康面及び食育面を含めて項目を設けた方がよいという話も出ている。</p> <p>(委員) 「市学力調査の実施」について、平成31年度までに全国平均正答率を100%とした場合の平均正答充足率を90%まで引き上げたいというものだが、この1年間で9%上がっている。何が功を奏したのか。</p> <p>(事務局) 具体的な取組というものではないが、このような目標を掲げることで、教員も熱心に指導していただいているということは教育委員会から聞いている。 教育委員会も読書活動の推進や漢字検定を実施する取組をしており、総合的に学力向上につながったのではないかと考えられる。</p> <p>(委員) 国語以外の教科はどうか。</p> <p>(事務局) 教員は研究授業等にも積極的に取り組んでいる。教育の専門家からは、本市は独自の取組が多く、他市と比較しても意欲的に取り組んでいると言っていた。漢字検定については非常に評価が高く、国語は全ての教科の基礎なので、他の教科の学力向上にもつながったと思われる。</p> <p>(委員) 1年でここまで伸びたのは喜ばしいことである。</p> <p>(委員) 12ページ「男性市職員の育児休業の取得促進」について、平成27年度値が11%と既に31年度の目標を上回っているということで素晴らしいと思う。</p> <p>(委員) 基本目標1の平日の滞在人口が約1割減少してしまっている。原因は分析されたか。</p> <p>(事務局) 地域経済分析システム（RESAS）によるもので、原因は分からない。</p> <p>(委員) 平日の滞在人口は雇用の影響がかなり大きいと考えたときに、市内の雇用数が減少しているのではないか。大きな企業が市外へ流出した等、特にないか。</p> <p>(事務局) 平成27年度にかけて、大きく動いた企業は特にない。傾向としては、事業所数は徐々に減少しているが、大きくは変わっていない。</p> <p>(委員) 商工会において、退会者数が入会者数を上回っている状況である。後継者不足が問題である。</p> <p>(委員) そもそも地方創生の取組というのは、人口を維持するという目標からスタートしているが、人口の維持と雇用の問題は密接に関係しているものなので、産業振興分野によりお金をかけてもよいのではないか。本市における基盤産業は何か、雇用はどこで生まれているのかという部分に行政が入り込んで、集中と選択をしていかないと、何をやっているのか分からない。</p> <p>(委員) 昨年度も出ていた話だが、「検討」が目標になっているのはおかしい。</p> <p>(委員) 予算の問題もあるのであると思うが、今年度からは総合戦略を実施していく年であるので、行政として前向きに進めていってほしい。総合戦略が絵に描いた餅にならないように、市役所のチームワークを期待している。</p> <p>(委員) 1ページ「広報戦略（シティプロモーション戦略）の策定」の「目標値達成への課題と対応」にあるように、「どのような魅力を誰に発信するかなど、効果的かつ戦略的発信」することができれば、全てがうまく進むと思う。</p>
--	---

	<p>(委員) 一つ一つの事業は考えられたものであるので、連携すればすぐに動けそうものもある。担当部署の横の組織づくりは企画政策課が主になって動かすときに、全体的なまちの将来像についての危機感を共有してもらえれば、動きやすくなるのかと思う。是非実行に移してほしい。</p> <p>(委員) 要はビジョンと戦略である。予算をかけずとも、アイデアや連携することでできることはある。</p> <p>(委員) 例えば、産業のある部分を失ったら市の根幹が崩れてしまうからその部分にお金をかけるような分析をしていくべきである。</p> <p>(事務局) 他に意見等があれば、8月12日(金)までにメール等で送ってほしい。</p> <p>(3) その他</p> <p>(事務局) 地方創生加速化交付金事業として、「武蔵村山の魅力づくり推進事業～魅力教え隊及び魅力マイスター制度の整備～」を今年度実施する。</p> <p>今後としては、本日いただいた意見をまとめて、主管課へフィードバックし、国に報告するとともに、市ホームページにて公表する予定である。</p> <p>推進委員会としては、今回1回で終了予定である。必要に応じて、また会議開催を依頼することがあるかもしれないので、その際はよろしく願います。</p>
--	--

会議の公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 5px;"></div>	傍聴者： <u> 0 </u> 人
-------------	---	---------------------

会議録の開示・非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等：)
--------------	---

庶務担当課	企画財務部 企画政策課(内線：374)
-------	---------------------

(日本工業規格A列4番)